

幼児教育に必要とされる概念に 関する学習の実態について

高尾兼利, 田中麻里, 中村勝美, 丹羽ヤエ子, 野口美乃里

(佐賀短期大学)

(平成15年10月31日受理)

On the Actual Condition of Students' Learning Concepts Required for Preschool Education

Kanetoshi TAKAO, Mari TANAKA, Katsumi NAKAMURA, Yaeko NIWA, Minori NOGUCHI

(*Saga Junior College*)

(Accepted October 31, 2003)

Abstract

We researched on the actual condition of our students' learning concepts required for preschool education. This report is described these methods, results, and considerations of research. This is also the preparation of the real research.

Key words : learning concepts 概念学習
preparation of the real research 予備的調査

1. 緒言

幼児教育者としての実践力を身に付ける。そのための教育は実技力の教育と概念力の教育に大別できると筆者らは考えている。実技力の教育は、音楽、体育、造形を中心にその教育の成果は分かりやすく、教育の方法も構築されてきている。たとえば本学においても、本学教員によるテキストや教本が従来より作成されてきている。

一方、概念力の教育についてはどうであろうか。これについては、各々の教科において個別に追求されている

段階で、かつその成果が見えにくいためか、一定の方法が構築されているとは言いがたい。いわば教科目の大綱化の流れの中で、概念系科目全体として、実践のための概念力向上の方法を創造していくべきものと思われる。

そこでわれわれは、まず概念系科目についての学生の意識とその学習の実態を知り、これを概念力の教育に生かすべく調査を実施した。今回の調査は、今後の本格的調査の予備的な意義を持つものであるが、これを記録にとどめ同様の調査を実施する場合の資料となると考え、ここに記述を残すことにした。

2. 方法

- 1) 幼児教育者養成にかかる専門科目の中で、概念系科目を教える専任教員が、2002年度の幼児教育学科1年生に教えた各科目について、鍵となる概念をあげた。科目名は次の通りである。「教育臨床心理学」「養護原理」「保育実習指導」「教育実習指導」「保育原理Ⅰ」「保育原理Ⅱ」「保育指導論Ⅰ」「保育指導論Ⅱ」「乳児保育Ⅰ」「乳児保育Ⅱ」「発達心理学Ⅰ」「人間関係」「教育者論」の13科目である。
- 2) あげられた概念を次のように分類した。このとき、教育職員免許法施行規則第六条第一項と児童福祉法施行規則第三十九条の二第一項第三号を参考にした。分類は以下の通りである。①幼児教育者としての望ましい態度②乳幼児を取り巻く環境③乳幼児の保育・教育に関する制度及び機関④乳幼児の教育・保育の方法⑤乳幼児の心や体の特徴の5つに分類された。
- 3) この分類と先の鍵となる概念を参考にして、次の調査項目を考案し、3段階に分けて調査を実施した。
- 4) 第1段階は、学生概念系科目の学習についての自己評価に関する調査である。具体的調査項目を次に示した。

概念系科目の学習に関する調査 1

1年次生の時に専門教育科目の中で学習した内容が、現在自分の中にどれ位残っているのか、確認してください。またこのことをどの程度実行に移したい、または実践に活用したいと考えているのか、教えてください。自分に当てはまるところの番号を○で囲んでください。

1. 幼児教育者の望ましい態度について、教えてください。

1) 幼児教育者である前に人として求められる望ましい態度について教えてください。

①人として求められる望ましいマナーについて、1年次に専門教育科目の中で学習したことが、現在あなたの中にどの程度残っていますか。

- 5 (ほとんど残っている)
- 4 (かなり残っている)
- 3 (ある程度残っている)
- 2 (あまり残っていない)
- 1 (ほとんど残っていない)

②人として求められる望ましいマナーについて、1年次に専門教育科目の中で学習したことを、どの程度実行に移したいと考えていますか。

- 5 (ほとんど全部実行したい)
- 4 (かなりの部分実行したい)
- 3 (ある程度実行したい)
- 2 (あまり実行したくない)
- 1 (ほとんど全部実行したくない)

2) 幼児教育者として求められる態度について教えてください。

①幼児教育者として求められる望ましい態度について、1年次に専門教育科目の中で学習したことが、現在あなたの中にどの程度残っていますか。

- 5 (ほとんど残っている)
- 4 (かなり残っている)
- 3 (ある程度残っている)
- 2 (あまり残っていない)
- 1 (ほとんど残っていない)

②幼児教育者として求められる望ましい態度について、1年次に専門教育科目の中で学習したことを、どの程度実行に移したいと考えていますか。

- 5 (ほとんど全部実行したい)
- 4 (かなりの部分実行したい)
- 3 (ある程度実行したい)
- 2 (あまり実行したくない)
- 1 (ほとんど全部実行したくない)

3) 幼児教育者として求められる望ましい心理的特徴について教えてください。

①幼児教育者として求められる望ましい心理的特徴について、1年次に専門教育科目の中で学習したことが、現在のあなたの中にどの程度残っていますか。

- 5 (ほとんど残っている)
- 4 (かなり残っている)
- 3 (ある程度残っている)
- 2 (あまり残っていない)
- 1 (ほとんど残っていない)

②幼児教育者として求められる望ましい心理的特徴について、1年次に専門教育科目の中で学習したことを、どの程度身に付けたいと考えていますか。

- 5 (ほとんど全部身に付けたい)
- 4 (かなりの部分身に付けたい)
- 3 (ある程度身に付けたい)
- 2 (あまり身に付けたくない)
- 1 (ほとんど全部身に付けたくない)

2. 乳幼児を取り巻く環境について学習したことについて教えてください。

①乳幼児を取り巻く環境について、1年次に専門教育科目の中で学習したことが、現在あなたの中にどの程度残っていますか。

- 5 (ほとんど残っている)
- 4 (かなり残っている)
- 3 (ある程度残っている)
- 2 (あまり残っていない)
- 1 (ほとんど残っていない)

②乳幼児を取り巻く環境について、1年次に専門教育

科目の中で学習したことを、より深く理解し、今後の実践に役立てたいと、どの程度強く思いますか。

- 5 (ものすごく強く思う)
- 4 (かなり強く思う)
- 3 (ある程度思う)
- 2 (あまり思わない)
- 1 (ほとんど思わない)

3. 乳幼児に関する教育機関(幼稚園など)や福祉施設(保育所など)、さらにこれらに関する制度(学校教育法, 児童福祉法など)について教えてください。

①乳幼児に関する教育機関や福祉施設, さらにこれらに関する制度について, 1年次に専門教育科目の中で学習したことが, 現在あなたの中にどの程度残っていますか。

- 5 (ほとんど残っている)
- 4 (かなり残っている)
- 3 (ある程度残っている)
- 2 (あまり残っていない)
- 1 (ほとんど残っていない)

②乳幼児に関する教育機関や福祉施設, さらにこれらに関する制度について, 1年次に専門教育科目の中で学習したことを, より深く理解し, 今後の実践に役立てたいと, どの程度強く思いますか。

- 5 (ものすごく強く思う)
- 4 (かなり強く思う)
- 3 (ある程度思う)
- 2 (あまり思わない)
- 1 (ほとんど思わない)

4. 乳幼児に対する教育・保育の方法(乳幼児へのかかわり方, ペープサート・紙芝居の実践上の留意点など)について教えてください。

①乳幼児に対する教育・保育の方法について, 1年次に専門教育科目の中で学習したことが, 現在あなたの中にどの程度残っていますか。

- 5 (ほとんど残っている)
- 4 (かなり残っている)
- 3 (ある程度残っている)
- 2 (あまり残っていない)
- 1 (ほとんど残っていない)

②乳幼児に対する教育・保育の方法について, より深く理解し, 今後の実践に役立てたいと, どの程度強く思いますか。

- 5 (ものすごく強く思う)
- 4 (かなり強く思う)
- 3 (ある程度思う)
- 2 (あまり思わない)
- 1 (ほとんど思わない)

5. 乳幼児の心や体の特徴について教えてください。

①乳幼児の心や体の特徴について, 1年次に専門教育科目の中で学習したことが, 現在あなたの中にどの程度残っていますか。

- 5 (ほとんど残っている)
- 4 (かなり残っている)
- 3 (ある程度残っている)
- 2 (あまり残っていない)
- 1 (ほとんど残っていない)

②乳幼児の心や体の特徴について, より深く理解し, 今後の実践に役立てたいと, どの程度強く思いますか。

- 5 (ものすごく強く思う)
- 4 (かなり強く思う)
- 3 (ある程度思う)
- 2 (あまり思わない)
- 1 (ほとんど思わない)

5) 第2段階は各分類ごとに学生の学習の実態を知るための調査である。この段階では記憶の「再生」を求めた試験を実施した。次に示す調査がその具体である。

概念系科目の学習に関する調査 2

1年次の専門教育科目の中で学習した内容が, どの程度みなさんに獲得されているのか。その実態を知る目的で作成した質問です。できるだけ全力で教えてください。

第1部 再生すべき内容

1. 幼児教育者の望ましい態度について教えてください。

- ①人として望まれるマナーについて, 3項目以上教えてください。
- ②幼児教育者として望ましい心理的特徴について, 5項目以上教えてください。
- ③保育者としての心得を3項目以上教えてください。

2. 乳幼児を取り巻く環境について教えてください。

- ①乳幼児にとって望ましい環境を一言でいうとどんな環境ですか。
- ②乳幼児を取り囲む具体的環境を, 5つ以上教えてください。

3. 乳幼児に関する教育機関や福祉施設, さらにこれらに関する制度について教えてください。

- ①児童福祉施設の種類を3種類以上教えてください。
- ②保育所を2種類に大別したときの名称を教えてください。
- ③保育の基本的あり方を記した文書を何といますか。教えてください。
- ④幼稚園教育の基本的あり方を記した文書を何と言いますか。教えてください。

⑤幼児教育・保育の基本的理念に寄与した人物をあげなさい。日本人1人, 日本人外3人。

4. 乳幼児に関する教育・保育の方法について答えてください。

①乳幼児への保育・教育を豊かに展開するための具体的手段について、5つ以上答えて下さい。

②乳幼児関わるときに具体的に心がける事柄について、3項目以上答えてください。

5. 乳幼児の特徴について答えてください。

①乳幼児の心身の発達の方向性について、2項目以上答えてください。

②心の成長に基本的に必要な体験や感覚について、2項目以上答えてください。

6) 第3段階は各分類ごとに調査2と同様に学習の実態を知る調査である。この段階では記憶の「再認」を求める試験を実施した。次に示す調査がその具体である。

概念系科目の学習に関する調査 3

1年次の専門教育科目の中で学習した内容が、どの程度みなさんに獲得されているのか。その実態を知る目的で作成した質問です。できるだけ全力で答えてください。

第2部 再認すべき内容

適当と判断される語句○で囲んでください。

1. 幼児教育者の望ましい態度について答えてください。

①好まれる保育者像として適切な内容を次の語句より5つ選択してください。

てきぱきと仕事をこなす人 善悪を明確に示す人
待ってくれる人 思いを読み取る人 言葉遣い達者な人
自身と誇りを持った人 学生のように親しめる人
細かいことに気づく人 行動が伴う人 感動する人
若さを忘れない人 動物が好きな人

②保育の方向性として適切な内容を次の語句より3つ選択してください。

技術や能力を育てる 思いやりを育てる 健康を育てる
知能を高める 生活する意欲を育てる 安全意識を育てる
自分から進んでする態度を育てる

2. 乳幼児を取り巻く環境について答えてください。

①子どもにとって最も望ましい環境の性質を次の語句より一つ選択してください。

適応的環境 愛情豊かな環境 適切に期待される環境
応答豊かな環境

②現代社会の特徴を適切に表している語句を3つ選択してください。

切れた社会 貧困社会 大人社会 幼稚社会 境界のない社会
疑惑社会 思い通りになる社会 お客様社会 子ども社会

③現在保育に関する社会問題として、最も注目すべき事柄を2つ選択してください。

早期教育 偏食問題 児童虐待 待機児童 延長保育
保育の質の問題

④現代家族の特徴を表した概念として適切な語句を3つ選択してください。

世代間境界希薄化 育児不安 安定家族 拡大家族化
怠慢家族 ままごと家族 肥満家族 孤立家族化
核家族化

3. 乳幼児に関する教育機関や保育施設、さらにこれらに関する制度について答えてください。

①児童相談所の所長の権限とあるべき態度として適切な概念を表した語句を4つ選択してください。

家庭裁判所における意見表明 児童に関する処遇方針の決定
児童福祉行政の総括 児童の意見表明権の尊重
自立支援施設の指導 児童の選択と契約の重視
児童に対する一時保護の権限 児童の学習権の擁護

②児童福祉に関する事業として展開されている事業を3つ選択してください。

児童ショートステイ事業 児童養護活性化事業
休日育児支援事業 児童サポート事業 児童デイサービス事業
放課後児童健全育成事業

③幼稚園教育の基本として適切でない概念を表した語句を3つ選択してください。

遊びを通しての教育 やさしさを重視した教育
保護者を配慮した教育 幼児期にふさわしい生活の展開
幼児の主体性を尊重した教育 生涯の発達を見通した教育
一人一人の発達の特性に応じた教育

④指導計画を立てるときに留意すべき事柄として、適切でない語句を3つ選択してください。

幼児の興味関心 生活の連続性 教材の経済性
反省と変容 季節の変化 体験の現実性 幼児の発達
幼児を取り巻く環境

4. 乳幼児に関する教育・保育の方法について答えてください。

①子どもの好きなお話はどんなお話ですか。その特徴を現した語句を3つ選択してください。

簡潔性のあるもの カラフルで楽しいもの リズム感のあるもの
筋道が合理的なもの 幼児の日常に近い題材を取り入れたもの
話し手が共感感動するもの 身近な動物が登場するもの

②環境整備で考慮すべき視点として、適切な考え方を表した語句を3つ選択してください。

幼児全体を考える 一年を通して一貫した環境を重視する
季節感を大切にする 男女の特徴を反映させる
発達段階を考慮する 日当たりを重視する

③子どもと関わるときに最も留意すべき心理を表した

語句を2つ選択してください。

知能 感情 思考力 好奇心 欲求 意欲

5. 乳幼児の特徴について答えてください。

①乳幼児の自発的言動に周囲が反応することによって身についてくる感覚はどんな感覚ですか。適切な感覚を1つ選択してください。

自己疎外感 自己有能感 自己誇大感 自己優越感 自己効力感

②乳幼児のものの考え方の特徴を現している語句を3つ選択してください。

アニミズム 幼児的思考 自己中心性 客観的思考 硬直した思考 運動感覚的思考 共感的思考 夢想優位思考

③子どもの不適応の特徴を適切に現した語句を3つ選択してください。

不適応を体の不調で表す 子どもが独立して立ち直ることが多い 不適応を苦しまない 周囲の環境の影響を受けやすい 周囲の大人に気づかれにくい 自然に回復することが少なくない 不適応を言葉で表しにくい わがままの延長

7) 3段階の調査は2003年10月の第1週と第2週に実施した。調査1と調査2は同一時間帯に、調査3は1, 2とは異なる時間帯に実施した。回答者は幼児教育学科2年生の、107名から113名であった。

3. 結果

1) 調査1の結果について

全体の分布は表1の通りである。

表1 調査1の結果 (全体分布)

		5	4	3	2	1
1	①	4	6	7 0	2 9	4
	②	2 3	4 0	5 0		
2)	①	4	3 5	5 7	1 6	1
	②	2 7	6 1	2 4	1	
3)	①	3	1 2	5 7	4 0	
	②	2 2	5 2	3 8	1	
2	①	7	4 1	4 7	1 7	
	②	3 2	5 2	2 7	1	
3	①	2	2 1	5 8	2 7	4
	②	2 4	3 8	4 4	6	
4	①	2 0	4 3	4 1	7	
	②	5 3	4 0	1 5	3	
5	①	5	2 8	6 9	1 0	
	②	4 1	5 0	2 0	1	

表1を基に、各評価段階に各評価段階の人数を掛けた総和数を、評価総人数 (113) と評価段階数 (1から5) で除した数に100を掛けた数を算出し、「望ましい傾向の

度合い」として、表2に示した。

表2 望ましい傾向の度合い

項目番号		望ましい傾向の度合い
1	1) ①	5 5 . 9 3
	②	7 5 . 2 2
2)	①	6 4 . 4 2
	②	8 0 . 1 8
3)	①	5 5 . 5 9
	②	7 6 . 8 1
2	①	6 6 . 2 0
	②	7 9 . 8 3
3	①	5 7 . 7 1
	②	7 3 . 6 1
4	①	7 2 . 4 1
	②	8 5 . 7 7
5	①	6 5 . 0 0
	②	8 3 . 2 1

2) 調査2の結果

全体の分布は、表3の通りである。空欄の部分は解答する必要のない箇所である。

表3 調査2の結果 (全体分布)

		5	4	3	2	1	0
1	①			1	1 5	5 5	4 1
	②	0	0	1	8	2 1	8 2
	③			0	0	1	1 1 1
	④					0	1 1 2
2	①						
	②	1 1	9	7	1 1	4	7 0
3	①			5 1	3 6	1 1	1 4
	②				2 7	3	8 2
	③					2 8	8 4
	④					6 5	4 7
	⑤		0	1 9	3 5	2 1	3 7
	⑥						
4	①	9	2	1	4	2	9 4
	②				1	2 1	9 0
5	①				0	0	1 1 2
	②				1	6	1 0 5

表3を基に、各評価段階に各評価段階の人数を掛けた総和数を評価総数 (112) と評価段階数 (1から5) で除した数に100を掛けた数を算出し、これを「正解率」として、表にした。これが表4である。

表4 調査2の正解率

項目番号	正解率
1 ①	26.20
②	7.14
③	0.29
2 ①	0
②	24.29
3 ①	70.24
②	25.45
③	25.00
④	58.04
⑤	33.04
4 ①	11.79
②	6.85
5 ①	0
②	3.57

3) 調査3の結果

全体の分布は表5の通りである。空欄の部分は解答する必要のない箇所である。

表5 調査2の結果（全体分布）

	5	4	3	2	1	0
1		18	47	39	7	
			17	66	26	2
2					5	106
			9	44	49	8
				22	85	3
			93	17	1	
3		5	58	34	9	1
			5	27	55	13
			52	49	9	1
			27	73	9	
4			2	38	69	1
			69	38	2	
				33	69	7
5					20	87
			10	42	46	8
			76	20	8	1

表5を基に各評価段階に各評価の人数を掛けた総和数を評価者総数（112）と各評価段階の数で除した数に100を掛けた数を「正解率」として、表6に示した。

表6 調査3の正解率

項目番号	正解率
1 ①	53.69
②	62.76
2 ①	4.50
②	49.70
③	58.64
④	94.29
3 ①	63.92
②	41.33
③	78.98
④	72.17
4 ①	45.76
②	87.16
③	61.92
5 ①	18.70
②	50.31
③	87.62

4. 考察

今回の調査は来年度の本格調査のための予備調査の意味合いが強く、本格調査の方向性を探るためのものになっている。このため、考察は最小に留めることにした。

調査1の結果については次のことが理解できるかもしれない。まず、学生の自己評価において、学習した概念系科目についてその内容が「ある程度残っている」（段階3）以上に評価したものが過半数を超えることが、注目に値する。各分類間で比較してみると、「乳幼児の教育・保育の方法」と「乳幼児の心と体の特徴」についての評価が、「幼児教育者としての望ましい態度」と「乳幼児の教育・保育に関する制度・機関」についての評価に比べて高いことが窺える。この差異の関連要因は種々に推量できるが、主に、学生の興味関心の程度や現実に身についているかどうかの判断が影響したものと思われる。

次に「実践に役立てたいとどの程度強く思っているか」に対する回答を見てみると、まずいずれの分類においても、「どのくらい残っていますか」の自己評価より相対的に高いとの印象を受ける。すなわち、自己が学習したと思っている現状より強く実践に生かしたいと感じていると解釈していいのかもしれない。ここでも分類間の差異が生じている。この差異は自己評価で生じた差異と同様の傾向を示している。ただし、態度の項目の方が制度・機関の項目より高く「実行に移したい」と回答しており、これに注目してよいように思われる。「望ましい態度」は学生の心中で実行と結びつきやすいことが、「実行に移したい」程度を高く評定したことにつながっているように思われる。一方、「制度・機関」は学生の実践と強く結びつきにくいのもかもしれない。

調査2の結果については次のことが理解される。分類間、項目間にばらつきが著しい結果になっていることが、まず理解される。これは問題の難易についてほとんど考慮せずに問題を作成したからに他ならない。本格調査のとき、特に工夫を要する点である。

問題と解答を対応させると、いくつか注目すべき点が浮かぶ。2の①「乳幼児にとって望ましい環境を一言で言うとどんな環境ですか」の問いに対して正解者が皆無であった点である。「応答する環境」を正解とした。このことは教員が授業中に繰り返し教えたことである。それにもかかわらず、正解者がいなかったことは、どうしてであろうか、その原因を探るべきことと思われる。同様なことが5の①「乳幼児の心身の発達の方向性について教えてください」の解答にもあてはまる。さらに、3の②「保育所を2種類に大別したときの名称を教えてください」に対して、112名中82名が全くの不正解を答えている。また3の③「保育の基本的あり方を記した文書を何と言いますか」についても112名中84名が不正解であった。今後は、こうした結果を踏まえて学生の教育にあたらなければならない。

調査3の結果については、次のことが理解された。調査2の結果に比べて、分類間、項目間のばらつきが小さかった。これは、調査3が、再認を求める問題であったことが影響していると思われる。今後この点に留意して問題を作成すべきことのように思われる。

各分類間に顕著な差異は目立たない。ただし、2の①「子どもにとって最も望ましい環境の性質を次の語句より一つ選択してください」の正解率は4.5と最も低かった。これは、調査2の結果と同様の傾向を示しており、十分留意すべきことである。

以上を考察とする。本格調査の実施の際にこれを生かすつもりである。

参考文献

幼児保育研究会(編)：最新保育資料集(2001) ミネルヴァ書房